



壱岐市長
白川 博一

白砂青松の豊かな自然、人情味溢れる風土、新鮮な海の幸そして米・いちご・メロン・アスパラ・壱岐牛などの豊かな農産物、そして麦焼酎発祥の地として有名な壱岐焼酎……まさに壱岐は「グルメの島」です。

そして壱岐は「歴史の島」でもあります。太古の昔から、東アジアと日本との交易の拠点として栄え、島内には貴重な遺跡や歴史遺産がいくつも点在しています。特に中国の史書「魏志倭人伝」に登場し、その王の都として初めて場所が特定された弥生時代の環濠集落「原の辻遺跡」は、国の特別史跡に指定され、歴史的価値の非常に高い貴重な品々が数多く出土しています。

こうした貴重な歴史遺産を活かすべく、平成22年3月14日、壱岐市立一支国博物館・長崎県埋蔵文化財センターがオープンし、悠久の歴史を堪能できる施設として、大変好評を得ています。この博物館を拠点に、壱岐を全国そして世界に情報発信し、交流人口の拡大を図るとともに、農業・漁業はもとより地場産業の振興を図っています。

そして、平成23年4月、壱岐市にとって画期的な事業である、光ケーブル網の整備が完成するとともに、壱岐市ケーブルテレビが開局しました。災害時における情報の伝達をはじめ、壱岐市民皆様が主役となる様々な情報の発信に努めています。

このように、日々刻々と変化する情勢の中で、「海とみどり、歴史を活かす癒しのしま 壱岐」の実現とさらなる飛躍に向け、様々な取り組みを実践しています。

この市勢要覧は、こうした壱岐市の魅力や活力ある産業、そして様々な分野で活躍される市民皆様の様子など紹介しています。

この冊子が壱岐市のまちづくり・地域づくりをご理解いただくための一助になれば幸いです。

壱岐市行政区のあゆみ

HISTORY OF IKI CITY

- 明治4年7月14日 廃藩置県により平戸県となる。
- 明治4年11月14日 長崎・平戸・島原・福江・大村を合わせて長崎県の管轄となる。
- 明治5年2月 区制施行により、壱岐を第76大区・77大区・78大区の3大区とし、浦を村に合せて22小区（22村）に区分。壱岐の自治制の基礎ができる。
- 明治6年12月 3大区を廃止し、全島を第30大区とする。
- 明治11年10月 郡区町村編制法が制定され、壱岐郡・石田郡の2郡となり22村に分けられる。
- 明治22年4月1日 壱岐石田郡役所が武生水村に置かれる。
- 明治22年4月1日 市町村制施行により、壱岐・石田の2郡、12村（武生水村・渡良村・柳田村・沼津村・志原村・初山村・香椎村・鯨伏村・田河村・那賀村・箱崎村・石田村）となる。
- 明治29年4月1日 壱岐・石田の2郡を合併、壱岐郡となる。
- 大正11年8月 壱岐総村組合設立。
- 大正14年4月1日 武生水村が武生水町となる。
- 大正15年7月1日 壱岐郡役所を廃止して壱岐支庁が設置される。
- 昭和10年4月1日 香椎村が勝本町となる。
- 昭和22年11月3日 田河村が田河町となる。
- 昭和23年4月1日 壱岐郡12町村をもって壱岐郡町村組合を設立する。
- 昭和30年2月11日 町村合併促進法により、武生水町・渡良村・柳田村・沼津村・初山村・志原村の6町村が合併して郷ノ浦町となる。また、勝本町・鯨伏村が合併して勝本町となる。
- 昭和30年4月1日 田河町・那賀村が合併して芦辺町となる。
- 昭和31年9月30日 芦辺町に箱崎村を編入する。
- 昭和33年4月1日 郷ノ浦町の久喜触を石田村に編入する。
- 昭和36年4月1日 芦辺町湯岳地区の射手吉触・興触の一部を石田村に編入する。
- 昭和45年8月1日 石田村が石田町となる。
- 昭和56年4月1日 壱岐郡町村組合を壱岐広域圏町村組合と改称する。
- 平成16年2月29日 合併に伴い壱岐広域圏町村組合が解散する。
- 平成16年3月1日 郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町が合併して壱岐市となる。



九州本島から壱岐市へのアクセス

長崎空港 → 壱岐空港	約 94km	飛行機	約30分
博多港 → 郷ノ浦港	約 76km	ジェットfoil	約1時間10分
		フェリー	約2時間25分
博多港 → 芦辺港	約 66km	ジェットfoil	約1時間5分
		フェリー	約2時間10分
唐津東港 → 印通寺港	約 41km	フェリー	約1時間40分

壱岐市の地形

広域	東西 約15km・南北 約17km
面積 <small>※()内は属島を含まない</small>	139.42km ² (133.93km ²)
周囲 <small>※属島を含む</small>	約191km
最大標高	212.8m(岳ノ辻)

壱岐市の人々

人口	29,377人	
	男性	13,917人
	女性	15,460人
世帯数	10,401世帯	
人口に占める65歳以上の割合	32.8%	

(平成22年)



壱岐市の概要

壱岐市は、平成16年3月1日に郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の4町が合併して誕生しました。

壱岐市は、福岡県と対馬の中間地点で玄界灘に面し、福岡県博多港から郷ノ浦港まで西北76km、佐賀県唐津東港から印通寺港まで北41kmの位置にあります。

南北約17km、東西約15kmのやや南北に長い亀状の島で、総面積は139.42km²、壱岐本島と23の属島(有人島4・無人島19)からなる全国で20番目(沖縄は除く)に大きな島です。

地形は一般に丘陵性の玄武岩をなし、高度100mを超える山地が占める面積は極めてわずかです。分水嶺は西に偏り、谷川は北西から南東に、幡鉾川は西から東に流れ、その流域には、本島最大の平野(深江田原)が発達しています。

海岸線は屈曲が多く、発達した海蝕岩がみられる北東部を除けば、大小の湾入があります。特に、西岸一帯は激しく、溺谷の原型を保っており、南東岸には、大小の砂浜が点在しています。

昭和43年7月22日に、壱岐の一部地域が壱岐対馬国定公園に指定、また、昭和53年6月16日には、辰の島・手長島・妻ヶ島の3ヶ所が海中公園地区に指定されるなど自然景観にも恵まれています。

現在、壱岐市では「①産業振興で活力あふれるまちづくり、②福祉・健康づくりの充実で安心のまちづくり、③自然を生かした、環境にやさしいまちづくり、④心豊かな人が育つまちづくり、⑤国内外交流が盛んなまちづくり、⑥さまざまな人が関わり合うまちづくり」の6つの基本指針をもとに、「海とみどり、歴史を活かす癒しのしま 壱岐」を目指し、新しいまちづくりを進めています。

壱岐市の気象

対馬暖流の影響を受け、概ね温暖な海洋性気候です。県本土の長崎市・佐世保市と比較すると、年間を通して1～2度低く、同緯度の福岡県北部と比較すると、夏季は涼しく、冬季はやや温暖で、降雪や積雪もまれです。

降水量は、6・7月の梅雨期と9月の台風、秋雨時期に多く、県本土よりはやや少ない傾向にあります。